あさひの日だまり

令和４年７月　８日（金）

NO.１３

辰野町立辰野東小学校　文責　片桐

～小学生と暮らして思うこと～

感性の豊かさに驚かされます

今週は、出張続きで学校にいる時間が本当にわずかでした。授業中の子どもたちの姿もほとんど見られませんでした。やっぱりなんだか寂しいです。「みんな元気でやっているかな？」などと思いながら会議に出ていました。なので、お便りにも子どもの様子を描くことができません。今日は、ちょっと時間ができたときにふと考えたことをかきました。私事の内容で申し訳ないなと思いながら書きました。もしよろしければ目を通してください。

一人の児童がお腹の前で大事そうに箱を抱えて登校してきました。「蛹どうなった？」と尋ねました。「ほら見て」と言って中を見せてくれました。羽化したばかりなのでしょう、美しい蝶が静かに羽を広げていました。先日までは２匹の幼虫が、柑橘系の樹木の葉を盛んに食べていました。「先生、カリカリ音がするよ」と言うので、箱に耳を寄せてみると、幼虫が葉を食べている音が「カリカリ」と聞こえてきました。幼虫が葉を食べる時に音がするのです。確かに生きているという小さな命の強い生命力を感じました。思わず、「へー　こんな音を立てて食べるんだ」と私はつぶやきました。その後も、彼は、その箱を本当に宝箱のように抱えて登校してきていました。ある日「１匹は熱中症で死んじゃった。でも１匹が蛹になった」と箱を抱えながら教えてくれました。

ドジョウとオタマジャクシもクラスの仲間です

世の中には「観察」という言葉がありますが、彼にとって今目の前にいる蝶は、どう見ても「観察」の対象ではありません。「観察」の対象をとうに超えています。自然の中に生きる蝶、そして、自然の中に入りその一部になっている彼。蝶と彼は自然の中で強く結びついているように思えます。図鑑にも載っていない蝶の本当の姿を彼は知っているに違いありません。「子どもってすごい！」と感じる瞬間でした。

小学校にいるとこんな場面によく出会います。掌に蚕を包み、いとおしそうになぜながら校長室へ連れてきてくれる児童がいます。「蚕は手に引っ付いちゃうんだよね」と言いながらやさしく手から蚕を引き離して私に触らせてくれました。なんだかとても大切なものを触っている気持になりました。数日後、昇降口でその子に会うと、降りしきる雨の中「桑の葉をとってくる」と外へ飛び出していきました。雨に濡れることよりも、蚕の空腹のほうがその児童にとっては苦痛なのでしょう。自分と蚕の間に上下関係は既にありません。

カタツムリにカエル、オタマジャクシに輝く小さな石。子どもたちの興味関心は尽きません。「見つかったら先生に何か言われちゃうから」と言いながら、連れてきたダンゴムシをそっとポケットに潜ませる児童がいました。

私はふと今まで勤務してきた中学校のことを思い出しました。中学生がカエルを両手で柔らかく包みながら「先生、こんなに小さくってかわいいよ」と言いながら見せてくれたことがあったっけ。思い出す限り一度もありません。「中学生にもなってそんなことに興味持つはずないよ」と言ってしまえば確かにそうかもしれません。年齢を重ねると、子どもたちの興味関心は少しずつ変わっていくことも確かにあると思います。ただちょっと思うこともあります。それは、子どもたちの持っている身の回りのものへ対するこの興味関心が、次第に薄れていくのは年齢のせいだけだろうかと。そして少し心配になるのは、私たちが「授業」という枠の中で学習を進める間に、次第に忘れさせてしまってはいないかということです。

先生方に、「一週間に一度でも、児童が前のめりになって授業に浸りこむような瞬間があれば素敵ですね」という話をさせてもらっています。

子どもたちの心の中は興味関心に満ち溢れています。興味関心に導かれて、思考は働きます。そして行動が起こります。こういう姿のことを「自律した姿」というように思います。そんな児童の姿を私たち学校職員は大切にしていかなくてはいけないと思います。

先週の暑さには本当に参りました。コロナウイルス感染防止対策に加え、熱中症防止対策も必要な状況です。WBGT を１体に設置して朝・休み時間・昼休みに暑さ指数を測っています。

熱中症予報でその暑さ指数を可視化しています。５段階に分けて「３１～　運動は原則中止」「２８～３１　激しい運動は中止」「２５～２８　積極的に休憩」としています。

教室では換気をしながら（コロナ対策）クーラーと扇風機を併用しています。(熱中症対策)

登下校でも交通に気をつけながら、水筒で水分補給をしっかりして体調管理に気をつけてください。